

会 議 録

1 会 議 名	令和4年度第1回太宰府市環境審議会
2 開催日時	令和4年9月22日(木) 14:00～15:50
3 開催場所	太宰府市役所 3階庁議室
4 出席者名	浅野委員(会長)、井上委員、角委員、安恒委員、調委員、末藤委員、横光委員、宮原委員、石橋委員、岩熊委員
5 オブザーバー	山浦総務部長、村田総務部理事、友添観光経済部長、添田社会教育課長(教育部長代理)
6 事務局	中島市民生活部長、高野環境課長、徳重環境保全係長、佐々木主任主事
7 議 題	<p>【議事】</p> <p>(1) 区域施策編策定のスケジュールについて【資料1】</p> <p>(2) 太宰府市再生可能エネルギー導入目標設定について</p> <p style="padding-left: 20px;">① 地球温暖化対策に係る情報収集・分析【資料2】</p> <p style="padding-left: 20px;">② 進捗状況【資料3】</p> <p>(3) その他</p>
8 内 容	
事務局	<p>【議事(1)】区域施策編策定のスケジュールについて</p> <p>※事務局より説明</p> <p><u>※質問等なし</u></p>
会長	<p>【議事(2)】太宰府市再生可能エネルギー導入目標設定について</p> <p>※事務局より説明</p> <p>地域経済循環について九州環境管理協会(以下、九環協)より説明していただきました</p>

	よう。
九環協	地域内のお金が地域以内でどのように循環しているかを表したものです。現状では他の地域でつくられたエネルギーを使用しているため、今後は地域の中でエネルギーをつくりその代金が地域内で循環していくことで脱炭素社会に向かいます。
会長	補足しますと、エネルギーを使用する料金やガス会社や電力会社に支払われるので市内には残りません。そのため、再エネを市内で活用すれば使用料を市外に支出することが少なくなるので、利益をとどめることが可能になるものです。
事務局	【議事(3)】進捗状況【資料3】 ※事務局より内容説明
委員	カーボンニュートラルは温室効果ガスの排出と吸収でバランスをとるものなので、吸収側の樹木に関する整備計画についても聞きたい。市内の史跡地では放置された竹やスギ・ヒノキなどが多く、整備されなければ吸収量も伸び悩むと思いますので順次整備していく計画があればいいと考えます。
事務局	担当課である産業振興課と連携しながら進めていきます。
会長	自動車部門の排出量が約半分を占めるという点は太宰府市ならではの特徴です。
委員	通過交通量も含まれますか。
九環協	通過交通量は含まれません。太宰府市が起点の場合の交通量が反映されています。
委員	通過交通が含まれない割には自動車からの排出量が多いですね。
会長	自動車部門の排出量が多いことは事実としてわかったので、今後どのような施策を実行するかが大事です。
委員	気候変動による上昇温度について、福岡県が突出している要因を知りたい。
会長	ヒートアイランド現象が影響し、観測地である福岡市の気温が反映されていることが要因です。
委員	近隣では春日市の FIT 導入比率が高い理由は何ですか。
事務局	春日市は福岡都市圏南部の清掃工場があり、ごみ処理場でバイオマス発電を実施して

	売却しているため高くなっています。
委員	教育現場からの CO2 削減に貢献したく、エコアクションの効果を伺いたい。
会長	学内を一斉に LED 化すると初期投資額に見合う効果はすぐに得られると思います。
委員	市の地球温暖化対策推進補助金について、今後の展望を聞きたい。
事務局	現在、市では ZEH・太陽光発電・蓄電池システムの設置・次世代自動車の購入者に補助金を交付しており、長期的に続けていきたいと考えています。
委員	将来の担い手である子どもたちのために太宰府が潤うような施策ができませんか。
会長	農地として利用しながら太陽光を設置するための補助金を農水省も準備しているはずなので、活用を検討いただきたい。
事務局	手付かずの農地、史跡地などを活用した太陽光発電も検討しています。
会長	史跡地は景観との兼ね合いもあり難しい点もあると思います。都市計画区域外で実施すれば乱開発等の抑止効果も見込めますし、防災上の懸念がない場所で検討の余地があると考えます。
委員	福岡市内の小中学校等を参考に教育施設への太陽光発電導入は環境教育の観点からも効果が見込めると考えます。今後小学校に導入の予定はありますか。
事務局	新築に合わせて導入しており、現在水城小学校への設置を予定しています。その他小学校を含め築年数が古い施設が多いため、設置可能かどうかを検討し国の方針に合わせてできる限り設置を進めていきたいと考えています。
会長	将来の児童数を予測した公共施設の整備計画が立てられているのではありませんか。建て替えや学校の統合なども含め、長期的な計画と併せて考えることが望ましいです。
オブザーバー	現在計画を立てているところです。
委員	太陽光発電に関連して、朝倉市の苔の養殖事例などを参考に休耕地などを使って実施できるといいと思います。また、資料 3 で水力発電のポテンシャルがゼロである理由は何ですか。水が流れていて高低差があればポテンシャルはあるのではないのでしょうか。
九環協	ご指摘のとおりです。環境省のデータを引用していますが、太宰府市内の河川は調

	<p>査されていないため、ポテンシャルがゼロとなっています。</p>
会長	<p>例えば北谷の棚田で高低差があれば、可能性はあります。</p>
委員	<p>御笠川と宝満川の源流がある太宰府市なので、小水力発電の可能性をゼロとするのではなく今後検討が必要などと記載方法を見直してはいかがでしょうか。</p>
会長	<p>確かにそうですね。検討が必要だと思います。また、地中熱はポテンシャルとしてとても高い数値が出ているので、それに結び付く施策を考慮しておかないと必ず指摘を受けそうです。なぜこのように地中熱のポテンシャルが高いのですか。</p>
九環協	<p>地中熱に関しては全国的に高い数値が出ています。太宰府市に限って数値が高いわけではありません。</p>
委員	<p>実際この地中熱を利用するとしたらどのような方法が考えられますか。</p>
九環協	<p>例を挙げると、高層マンションなどは長めの杭を打って建設すると思いますが、杭と一緒に地上の熱と地中の熱を交換する管を入れて管の中で媒体を循環させます。すると、地上と地中の熱の温度差で冬は暖かく、夏は涼しいということになります。東北地方などの寒冷地では地上と地中の温度差が大きいので効果が高いですが、他の地域では導入効果が見込めないという意見もあります。新築の建物には検討の余地があります。宮若市のリコリス（生涯学習センター兼市立図書館）が地中熱を利用した建物になっており、空調に使うエネルギーの消費量が削減できていると聞いています。</p>
委員	<p>水を循環させるということですか。</p>
九環協	<p>いくつか方法があり、水や不凍液を循環させています</p>
会長	<p>これはヒートポンプを使います。ヒートポンプに関しては、お湯を沸かすことをイメージするのでわかりにくいのですが、夏は水道の水が温かいのでガス代が安く冬はガス代が高い。その理屈と同じで熱の差を使って、空調利用分のエネルギーを削減できるというものです。地中熱だけで熱の代替にはなりませんが、他の熱を使う時に地中熱を併用すればエネルギーを削減する助けになります。</p>
委員	<p>潜在的にはポテンシャルは高いが、費用対効果を勘案すると利用価値として難しいということですね。</p>
会長	<p>規模が大きい施設では効果が見込めるわけですが、福岡市で例を挙げると、百道にある施設では海水の温度差を利用してヒートポンプを補助的に使っています。</p>

委員	ポテンシャルとしては地球上にあるということですよ。
九環協	そのとおりです。
委員	この表の見方で、大区分、中区分、賦存量、導入ポテンシャルについて説明をお願いします。
九環協	賦存量とは社会的条件や経済的条件を加味せずどれだけ存在するのかわかる値であり、導入ポテンシャルは社会的条件や経済的条件を少し加味して数値化したものです。表の見方に関する説明が不十分だと思いますので、次回の素案では委員の皆さんにもご理解いただける資料を準備したいと思います。
委員	風力に関して、太宰府市の山の高いところでは風が吹いているという理屈ですか。
九環協	風力発電は安定的に風が吹くことが必須です。その条件を考慮したのが導入ポテンシャルであり、これらの条件を一切考慮せず出しているのが賦存量です。
会長	風力は太宰府の場合歴史的な景観を大事にしているので兼ね合いも大事です。
委員	要望に近い話になりますが、将来設計で自動車に関しては利用を減らすのではなくコミュニティバスなどを使おうという話がありますね。コミュニティバスの利便性は悪くないとアンケートでわかっていますが、乗客が少ないので路線の変更なども含め、駅やショッピングセンターへの乗り入れも含め検討してほしい。そうすると利用者が増えるのではと考えます。
会長	施策に入れるうえでしっかり検討すべきですね。財政的にはかなりの負担になるのですが、交通対策だけでなく温暖化対策も含めると考えればそれだけのお金をかける意味がある。現状でも公共交通の利便性が評価されているのであれば、高齢化が進行する今後はさらに評価されるようにすべきですね。
委員	自動車からの CO2 排出量が多い理由は多くの人が通勤で車を使用しているからであって、今後は乗らないようにする、電車などの公共交通機関の利用を促進する施策を講じてはいかがでしょうか。
委員	非常にいい計画なので、実効性のあるものにするため、各個人・各企業が意識改革をして全員が取り組むことが大事です。市民会議や業種ごとに会議をするなど啓発をしながら動いていくといった明確なことを入れていただきたい。どう行動に移すかということを検討して入れてほしいと思います。

事務局	一人の力では CO2 は削減できません。一番重要なのは市民の皆さんが意識することなので、小さい単位から、ゼロカーボンの研修などを市民・職員等に向けて続けていきたいと考えています。
委員	校区ごとであればおやじの会とタイアップするなど、既存の団体と結びつけて意識改革を推進し、各家庭で実行してもらおう一連の流れを考えていただければいいと思います。
会長	太宰府は観光が重要な事業なので、脱炭素とのつながりは考えなくていいのでしょうか。
オブザーバー	直接脱炭素との関連した事業をご紹介することは難しいのですが、歴史と文化の環境税の目的の中には、ゼロカーボンシティに向けたまちづくりも入っています。太宰府に車で来客されることも多いので、公共交通を利用していただきながら観光の回遊性を高めることも観光担当で模索し観光の施策としてゼロカーボンに貢献できないかを検討しています。「よしのまわり」では来訪者に歩いていただき、そのお礼として桜を植える観光コースがあります。現在、事業所と森林の再生を兼ねた「歩く観光」ができないか協議をしており、脱炭素へも貢献できる事業を今後検討してまいります。
会長	駐車料金を払った人にはコミュニティバスを無料にするなどして、車を使用する距離を短くしてもらえるといいですね。
オブザーバー	レンタサイクル事業は、西鉄太宰府駅を拠点に実施しています。公共交通でお越しいただき、国博から二日市か都府楼で乗り捨て可能です。回遊コースの提供やレンタサイクル事業についてはさらに拡大を検討していきたいところです。
会長	脱炭素施策の一環だと位置づけるとレンタサイクル事業も付加価値がつくと思います。同様に市の施策を洗い出してみると、計画とつながりのあるものは必ずあるはずなので、他を探してみることも大事だと思います。
委員	太宰府は森林が非常に多く、四王寺山も以前に比べて森林におおわれています。しかし、CO2 吸収源としては、これ以上森林が増えたら吸収できない。間引きなどにより適正に管理しなければいけないと考えます。
会長	適度に植え替えをするなどの取り組みが必要ですね。
委員	火災による CO2 排出量は加味されていないのでしょうか。 アンケート調査にも森林火災含め記載がないが、いいのでしょうか。

会長	これまでそういった議論はしていません。
事務局	アンケートでも火災は現段階では考えていません。
委員	私は商工会代表として出席しています。太宰府市の特色として太宰府市の商工会には観光部会がありますので、カーボンニュートラルの説明会などもできたらいいのではないかと思います。
会長	事業者へ脱炭素社会の取り組みを啓発するのはいいことですね。
委員	以前は割りばしの回収などを実施していましたが、今後も時代に合わせた取り組みができればいいと思います。
事務局	事業者のみなさまにも脱炭素への取り組みにご協力いただきたいと思います。
委員	資料3の将来推計において、家庭でも実施したほうがいいことは多くの人が理解しています。しかし、自動車を電気自動車に変えるなどを例にとっても、費用がかかる。そのためCO2を削減するには個人負担が大きいと感じてしまいます。そういった点で各家庭のCO2削減を支援する補助金制度などを整備していただければと思います。
会長	世代交代が進みつつあるので建て替えの際に環境に配慮した住宅に代わっていただければいいと思います。本日は終了いたします。次回は計画の素案が出来上がる予定ですので、またご審議いただければと思います。